

評価対象事業		評価者	青少年課 小林瑞幸	
こども-29	放課後かまくらっ子推進事業	☒ 自治事務	主管課	青少年課
		☐ 法定受託事務	関連課	—
総合計画上の位置付け	分野	青少年育成	施策の方針	青少年の育成・支援

1 事業の目的

対象	市内に居住する小学生及び中高生、大学生等
意図	放課後かまくらっ子事業を充実させるため。
効果	放課後かまくらっ子に青少年が参画することで、地域の中でキャリア教育等の機会を充実させる。

2 令和5年(2023年)度実施した事業の概要

・放課後かまくらっ子推進参与による支援員への研修や、市内全16施設の現場視察を行い、放課後かまくらっ子の課題等を把握し、事業の推進を図った。	
・こどもまんなか社会の実現を目指し、放課後かまくらっ子事業改新ワーキンググループにおいて子どもへの接し方などを記した『放課後かまくらっ子で大切にすること』を策定した。	
・放課後かまくらっ子が「出あう・つながる・ふるさとで自ら育つ」という理念のもと、さらなる事業の推進を図るため、推進部会委員から様々な助言を受けた。	
・小学校区ごとに放課後かまくらっ子運営協議会を対面会議により開催した。	
・放課後かまくらっ子中高生サポーター活動実施要領に基づき、中高生の参画を進めるとともに、大学生の協力のもと、中高学年の自己実現プロジェクトを4施設において実施した。	
・放課後かまくらっ子に関わるスタッフが一堂に会するシンポジウムを開催し、1年の取組の振り返りを行うとともに、今後の目標や方向性を確認しあった。	

放 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度	
				指標(実績値／目標値)		指標(目標値)		
				事業費(決算／当初)(千円)		予算額(千円)		
01	放課後かまくらっ子推進参与報酬	支援員への研修や、放課後かまくらっ子現場視察等を行った。	現場視察回数	26 /	24	24	108%	
				1300 /	1350	1,100		
02	放課後かまくらっ子推進部会謝礼・印刷製本費・シンポジウム会場使用料等	放課後かまくらっ子の推進を図るために、推進部会を定期的に開催した。	放課後かまくらっ子シンポジウム(回)	1 /	1	1	100%	
				472 /	562	1,207		
		財源内訳	国県支出金	/				
			地方債	/				
			その他特定財源	/				
			一般財源	1,772 /	1,912	2,307		
			事業費の合計 (千円)		1,772 /	1,912		2,307
			人件費 (千円)		14,274			14,970

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.8	1.9	1.5	1.5	1.5	
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	放課後かまくらっ子推進参与報酬	放課後かまくら全体の質の向上のため、定期的に現場視察を行い、さまざまな視点で助言を頂くことを目的としているため。	放課後かまくらっ子を推進していくに当たり、小学生の放課後等の居場所を研究しており、小学校教諭及び放課後児童健全育成事業等の現場経験が豊富な推進参与からのマネジメントを受けることは重要である。	—
02	放課後かまくらっ子推進部会謝礼・印刷製本費・シンポジウム会場使用料等	多角的な視点から実例等の報告を聞き、意見交換する場(シンポジウム)を開催することで、放課後かまくらっ子16施設全体の質を向上させるねらいがあるため。	放課後かまくらっ子を推進していくに当たり、放課後かまくらっ子が目指す姿を実現していくためには、全体を俯瞰することができる実務経験や専門的知識を有する方からのマネジメントを受けることは重要である。	—

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
			協働実施済の場合のパートナー 放課後かまくらっ子推進参与 放課後かまくらっ子推進部会 放課後かまくらっ子運営協議会

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
放課後かまくらっ子への中・高校生、大学生の参画を引き続き進めていく 放課後かまくらっ子に來所する子どもたちの意見表明、自己選択・自己決定の範囲を広げ、子どもたちが主体的に放課後かまくらっ子に参画できる機会を増やすため、各施設においてこどもまんなか実現プロジェクトを計画し実施する 事業改新ワーキンググループにおける議論を継続し『放課後かまくらっ子で大切にすること』の内容の実施を確実に進めていく					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	放課後かまくらっ子推進参与による現場視察回数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
放課後かまくら全体の質の向上のため、定期的に現場視察を行い、さまざまな視点で助言を頂くことを目的としているため。	目標値	26	26	24	24	24	24	
	実績値	26	28	30	27			
	達成率	100%	100%	100%	100%			

指標(単位)							単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
多角的な視点から実例等の報告を聞き、意見交換する場(シンポジウム)を開催することで、放課後かまくらっ子16施設全体の質を向上させるねらいがあるため	目標値	2	2	1	1	1	1	
	実績値	2	1	1	1			
	達成率	100%	50%	100%	100%			

指標(単位)	放課後かまくらっ子運営協議会 開催回数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
国の方針により、放課後子ども総合プラン(放課後かまくらっ子)の実施にあたっては、学校や家庭、地域との密接な連携をとるため、小学校区ごとに協議会を設置するよう求められているため	目標値	16	16	16	16	16	16	
	実績値	0	16	16	32			
	達成率	0%	100%	100%	100%			

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--